

第13期第6回環境市民会議 主な意見一覧

資料1 第五期環境基本計画の中間評価について

- ・国や都が「昆明・モンテリオール生物多様性枠組」や「30by30」等の目標を受けて動いている中、市が「大きな環境変化がない」として方針を見直さないのはいかがなものか。2030年までの目標達成のためには、今回計画を見直す必要があるのではないか。
- ・環境基本計画は10年計画だが、ペット問題のように変化の速い課題もある。新たな視点を取り入れて途中で計画を変更することは可能か。

資料3 環境方針別施策評価

＜全般的事項＞

- ・資料3の評価基準について、「○」がついている施策でほぼ満足以上で50%を超えるものがほとんどないが、アンケート調査はどれくらい考慮されているのか。
- ・アンケート結果を鵜呑みにするのもよくないが、事業の遅れがあるものなどは指摘した方がいい。ここにアンケート調査結果を入れてしまうとミスリードになる可能性がある。
- ・アンケート調査結果より次回に向けた課題をほのめかした方が次回につながるのでは？次回の委員会までに補完する資料を用意して欲しい。
- ・定性的な評価をするということが資料1にあるにもかかわらず、資料3はかなり定量的な内容を含んでいるので整合性がとれていない。

＜環境方針1（地球温暖化・エネルギー）＞

- ・評価（考察）で「一方で、区域施策に関しては、令和12（2030）年度の温室効果ガス削減目標値53%（2013年度比）に対し、最新のR4（2022）年度実績は11.3%と大きく下回り、目標達成までの道のりは大変厳しい状況にある。」と自ら分析しながら、「（1）これからの家庭における効率的なエネルギーの活用の推進」の評価を○としているのは、自己評価が甘すぎるのではないか。

＜環境方針3（自然環境）＞

- ・水収支について、他の市町村で昭和20年を目標にしているところはあるか？武蔵野市の水が下流に流れるので下流地域で洪水のリスクが発生する。流出係数を増加させないことは大事。
- ・雨水浸透ますやレインガーデンなど、グリーンインフラの観点では進んでいると思う。努力していることはアピールするべきだ。

＜環境方針5（公害・災害）＞

- ・太陽光発電設備の設置が、市内住宅の災害に対するレジリエンスに寄与しているという考察について。太陽光発電は不安定で、夜間は0%、昼間であっても曇りの場合は20%と発電効率が落ちる。環境方針1の地球温暖化対策としてはいいが災害の分野で不安定な電源をあげるのは疑問だ。
- ・平時と非常時で評価が分かれる項目はある。そのあたりは吟味してもいいかもしれない。
- ・太陽光発電は不安定かつ売電価格も低下傾向にある。蓄電池とセットであればレジリエンスにつながるのでは。
- ・ペットや動物について方針5（公害・災害）に分類されていることに違和感がある。野良猫については、環境方針3（自然環境）、ペットについては方針5（都市環境）の分類になるのではないか。

資料4 個別事業の実施状況

- ・動物の相談支援事業は全国的にみても珍しい取組だ。7市で実施している自治体はどこか教えて欲しい。

- ①多摩地域で東京都の補助事業「地域における動物の相談支援体制の整備事業」を実施する市町村（7市）
八王子市、府中市、小平市、日野市、東大和市、多摩市、武蔵野市

②雨水流出係数の算出方法

「武蔵野市の環境保全」等で公表している雨水の流出係数は、下水道総合計画で設定した基準年度の H25 年度末の流出係数（0.52）をベースに、緑被率等による土地利用の変化や、雨水浸透ますの設置や透水性舗装などの年度毎に実施した対策量から試算した雨水の浸透量を加味して、年度末時点での流出係数を算出している。

雨水浸透対策の効果としては、流出係数は毎年度 0.01 以下（少数第 3 位）のレベルで減少しており、数字として劇的な変化として表れるものではないため、中期スパンで変化を見ていく必要がある。

なお、下水道総合計画では、基準年度の 30 年後にあたる令和 25（2043）年度末の目標値として 0.4（昭和 26 年度当時と同程度）を設定している。